

日本セーリング連盟
サステナビリティ(持続可能性)の
取組に関するアンケート
(2022 年度)
報告書・事例集

2023 年 3 月

公益財団法人日本セーリング連盟

目次

1	調査の概要.....	1
2	調査結果の概要.....	2
3	集計結果.....	3
3-1	団体種別.....	3
3-2	サステナビリティ(持続可能性)に関する取組(環境分野)	4
3-3	サステナビリティ(持続可能性)に関する取組(DEI 分野).....	5
3-4	取り組んでいる／関心のある SDGs(持続可能な開発目標)のゴール.....	6
3-5	サステナビリティ(持続可能性)に関する取組にあたっての課題	7
3-6	サステナビリティ(持続可能性)に関する取組の推進に当たって JSAF に求めること.....	8
3-7	実施してみたいサステナビリティ(持続可能性)に関する取組.....	9
4	サステナビリティ(持続可能性)に関する特色ある取組事例集	11

1 調査の概要

日本セーリング連盟では、各団体のサステナビリティ(持続可能性)に関する取組を把握して、先進的事例を横展開し、全国的な取組を活性化することを目的とし、アンケート調査を実施した。

図表 1-1 調査概要

調査対象	日本セーリング連盟 加盟団体・特別加盟団体・関連団体
調査期間	2022 年 5 月 20 日～6 月 14 日
調査項目	● 団体種別 ● サステナビリティ(持続可能性)に関する取組(環境分野) ● サステナビリティ(持続可能性)に関する取組(DEI 分野) ● 取り組んでいる／関心のある SDGS(持続可能な開発目標)のゴール ● サステナビリティ(持続可能性)に関する特色ある取組 ● サステナビリティ(持続可能性)に関する取組にあたっての課題 ● サステナビリティ(持続可能性)に関する取組の推進に当たって JSAF に求めること ● 実施してみたいサステナビリティ(持続可能性)に関する取組
配布数	加盟団体・特別加盟団体・関連団体にメールにて配布
回収	67 団体

2 調査結果の概要

アンケート調査の結果概要は以下の通り。

図表 2-1 アンケート調査結果のポイント

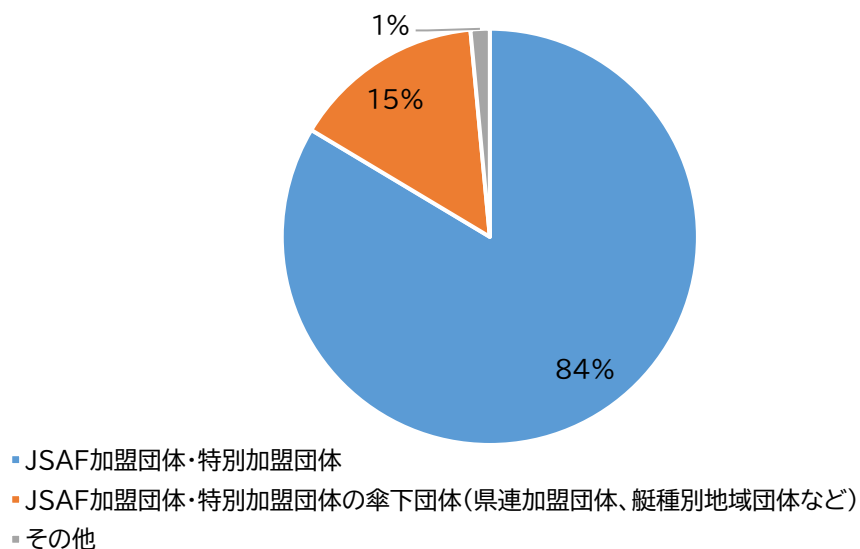
- 開催大会・日常活動等で実施しているサステナビリティ(持続可能性)に関する取組(環境分野)は、「ゴミの分別回収」(69%)が最も多く、次いで「環境にやさしいスポーツとしてのセーリングの魅力発信」(40%)、「ビーチクリーン活動」(37%)、「海洋浮遊ゴミの回収」(36%)であった。「マイボトルの配布・利用促進」(21%)、「プラスチックバッグ・包装の利用削減」(21%)、「子どもたちの学習機会の提供」(21%)、「ペットボトル利用の削減」(19%)が2割程度であった。
- サステナビリティ(持続可能性)に関する取組(DEI 分野)は「特に実施している物はない」(49%)が半数近くとなった。実施しているなかでは、「女性が参加しやすい大会運営(トイレ休憩時間など)」(25%)が最も多く、次いで「役員の性別比率の均等化へ向けた取組」(16%)、「障がいのある人の参加できるセーリング体験会」(15%)であった。
- 取り組んでいる／関心のある SDGs(持続可能な開発目標)のゴールは、「14. 海の豊かさを守ろう」(84%)が最も多く、次いで「5. ジェンダー平等を実現しよう」(40%)、「3. すべての人に健康と福祉を」(28%)であった。
- サステナビリティ(持続可能性)に関する取組にあたっての課題は、「人材が不足している」(52%)が最も多く、次いで「ノウハウがない」(42%)、「資金が足りない」(40%)、「ロールモデルを知らない」(33%)であった。
- サステナビリティ(持続可能性)に関する取組の推進にあたって JSAF に求めることは、「中小規模団体でも取り組みやすい取組内容の紹介」(51%)が最も多く、次いで「サステナビリティ(持続可能性)や DEI/SDGs についての情報提供」(48%)、「他団体の先進事例の情報提供」(43%)、「補助金等の経済的支援」(31%)であった。

3 集計結果

3-1 団体種別

- 団体種別は、JSAF 加盟団体・特別加盟団体が 56 団体(84%)、JSAF 加盟団体・特別加盟団体の傘下団体(県連加盟団体、艇種別地域団体など)が 10 団体(15%)で、その他が 1 団体であった。

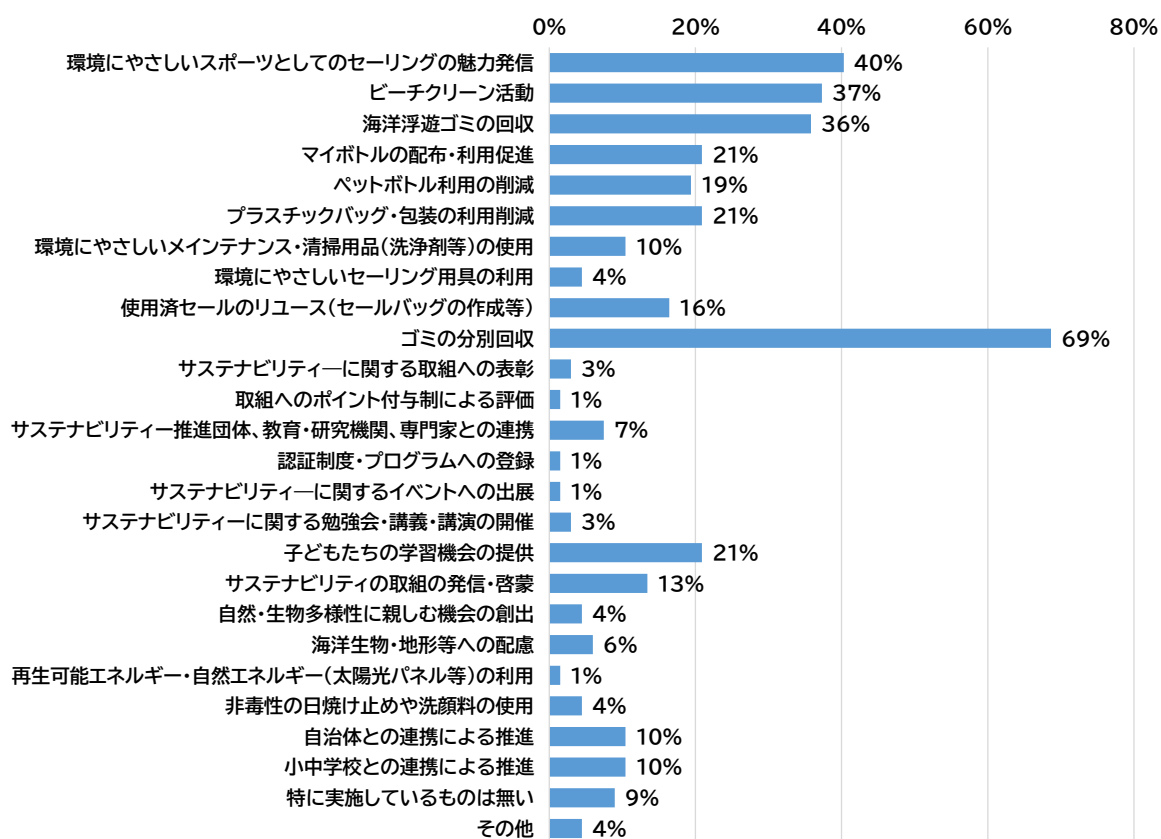
図表 3-1 団体種別



3-2 サステナビリティ(持続可能性)に関する取組(環境分野)

- 開催大会・日常活動等で実施しているサステナビリティ(持続可能性)に関する取組(環境分野)は、「ゴミの分別回収」(69%)が最も多く、次いで「環境にやさしいスポーツとしてのセーリングの魅力発信」(40%)、「ビーチクリーン活動」(37%)、「海洋浮遊ゴミの回収」(36%)であった。
- 「マイボトルの配布・利用促進」(21%)、「プラスチックバッグ・包装の利用削減」(21%)、「子どもたちの学習機会の提供」(21%)、「ペットボトル利用の削減」(19%)が2割程度であった。

図表 3-2 開催大会・日常活動等で実施しているサステナビリティ(持続可能性)に関する取組(環境分野)

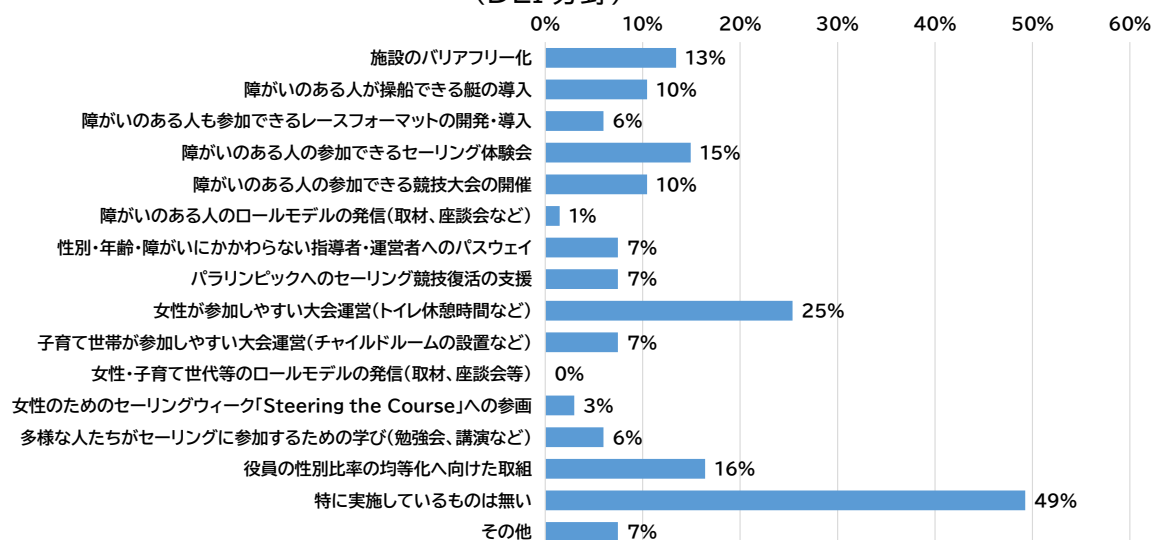


3-3 サステナビリティ(持続可能性)に関する取組(DEI 分野)

- サステナビリティ(持続可能性)に関する取組(DEI 分野)は「特に実施している物はない」(49%)が半数近くとなった。
- 実施しているなかでは、「女性が参加しやすい大会運営(トイレ休憩時間など)」(25%)が最も多く、次いで「役員の性別比率の均等化へ向けた取組」(16%)、「障がいのある人の参加できるセーリング体験会」(15%)であった。

※DEI=ダイバーシティ・イクイティ・インクルージョン:多様性・公平性・包摂性分野

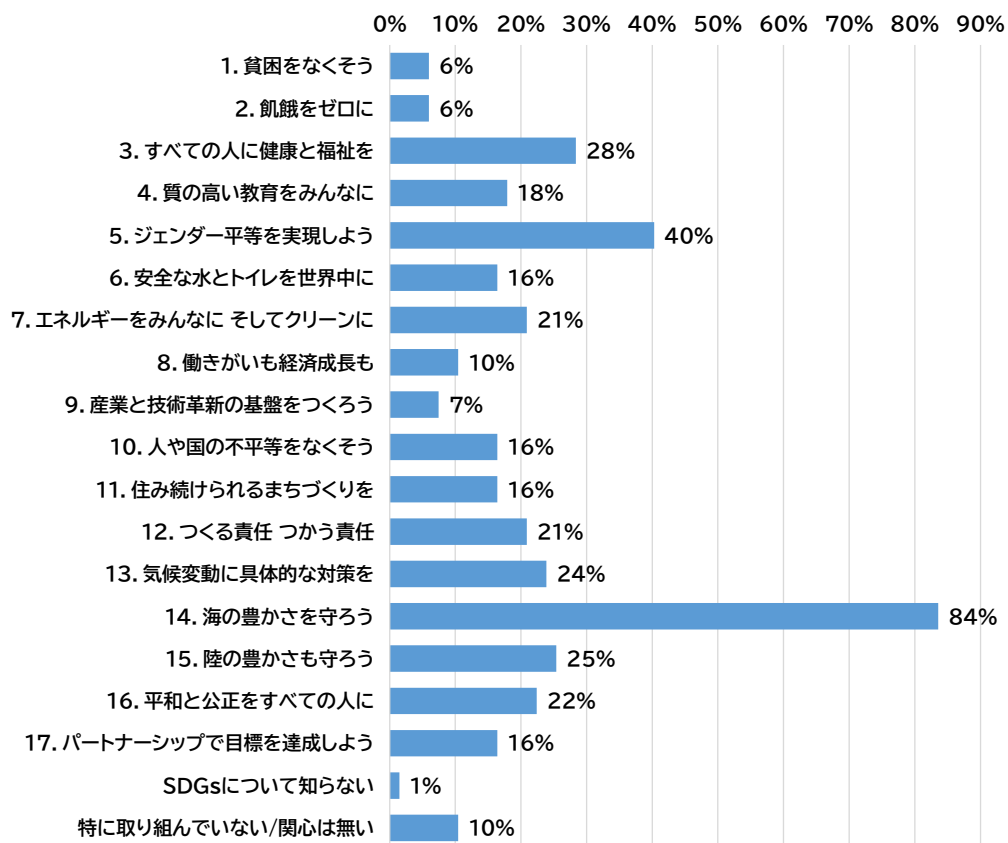
図表 3-3 開催大会・日常活動等で実施しているサステナビリティ(持続可能性)に関する取組
(DEI 分野)



3-4 取り組んでいる／関心のある SDGs(持続可能な開発目標)のゴール

- 取り組んでいる／関心のある SDGs(持続可能な開発目標)のゴールは、「14. 海の豊かさを守ろう」(84%)が最も多く、次いで「5. ジェンダー平等を実現しよう」(40%)、「3. すべての人に健康と福祉を」(28%)であった。

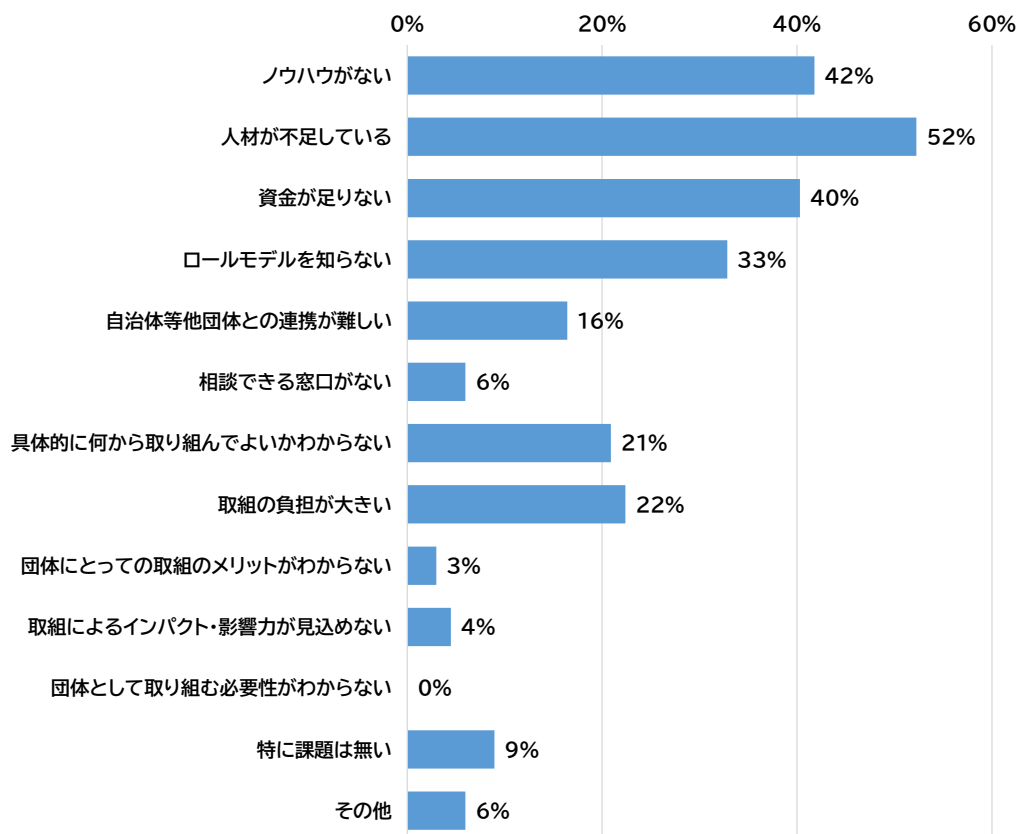
図表 3-4 取り組んでいる／関心のある SDGs(持続可能な開発目標)のゴール



3-5 サステナビリティ(持続可能性)に関する取組にあたっての課題

- サステナビリティ(持続可能性)に関する取組にあたっての課題は、「人材が不足している」(52%)が最も多く、次いで「ノウハウがない」(42%)、「資金が足りない」(40%)、「ロールモデルを知らない」(33%)であった。

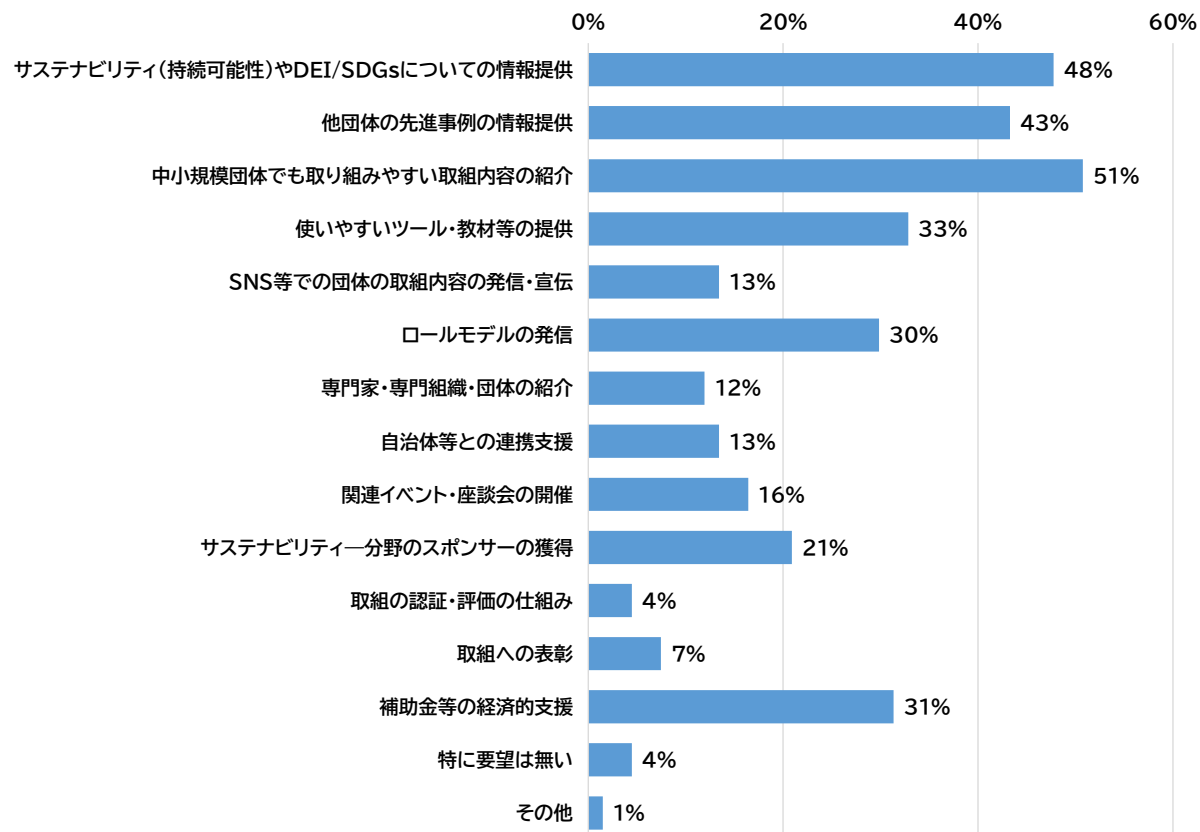
図表 3-5 サステナビリティ(持続可能性)に関する取組にあたっての課題



3-6 サステナビリティ(持続可能性)に関する取組の推進に当たって JSAF に求めること

- サステナビリティ(持続可能性)に関する取組の推進にあたって JSAF に求めることは、「中小規模団体でも取り組みやすい取組内容の紹介」(51%)が最も多く、次いで「サステナビリティ(持続可能性)や DEI/SDGs についての情報提供」(48%)、「他団体の先進事例の情報提供」(43%)、「補助金等の経済的支援」(31%)であった。

図表 3-6 サステナビリティ(持続可能性)に関する取組の推進に当たって JSAF に求めること



3-7 実施してみたいサステナビリティ(持続可能性)に関する取組

- 実施してみたいサステナビリティ(持続可能性)に関する取組は以下の通りであった。

図表 3-7 実施してみたいサステナビリティ(持続可能性)に関する取組

団体名	実施してみたい取組
藤沢市青少年セーリングクラブ	セーリングの練習の合間時間に、釣りや箱眼鏡での海の観察を通して、海の豊かさを学ぶ機会を創出したい
和歌山県セーリング連盟	カーボンニュートラルに向けた活動。船外機の電動化。
一般社団法人 日本スナイク協会	ビーチクリーン活動、リユースグッズの開発販売、エコスポーツとしてのセーリングの発信
日本モスクラス協会	激しく心拍が上がる、高速のモスにおいて海上での水分補給は非常に大切ですが、ドリンクを保管する適切な場所が無く、仕方なく各自がペットボトルをショックコードで縛ったりしています。しかしこれも激しいスプレーに流されたりして、頻繁に海に流してしまいます。水分補給できなくなるだけでなく、海洋汚染をしてしまったという罪悪感も小さくありません。そこで協会として、保冷製があって何度もリユースできるボトルと、それを固定するホルダーを配布したらどうかと考えています。
日本 A 級ディンギー協会	海の豊かさを守ろうの具体的な取り組みを考えたい。
日本ヨットマッチレース協会	海上でのプラごみ拾い。
日本メルジェス協会	海洋浮遊ごみの回収
日本ミラークラス協会	日本では数少ない木造艇を現在でも新艇としてキットで造船できるクラスであることが強みであると自負しています。これは、船を造船し、木造艇でセーリングするという機会において、自身でその仕組みを学び、自然をエネルギーとしたセーリングを知り、特に子供たちにおいては人間形成の良い機会ともなと思います。マイクロプラスチックを、ほぼ発生させることのない木造艇でのセーリングは、環境と真に向き合い、地球環境を悪化させない行動を実感し、持続可能なエネルギーの素晴らしさを学び、感じられるものです。このミラークラスがある事を、特に今までセーリングの体験が無い方々に提供し、海を身近に感じることで SDG's の実行とセーリングの振興・普及となる体験会を取り組むことが出来ればと考えております。
南北海道外洋帆走協会	ビーチクリーン活動
関東学院大学ウィンドサーフィン部(教職員)	使用していない学校プールを使用して、海から離れているエリアでの普及活動。
日本オープンスキフクラス協会	現行活動を継続すること
特定非営利活動法人大阪北港ヨットクラブ	海上やマリナー周辺の陸上の環境の改善に取り組みたい
(特非)宮城県セーリング連盟	ヨットハーバー(指定管理施設)への再生可能エネルギー導入
静岡県セーリング連盟	地球環境の中のきれいな海の持続の為にちいさな活動からの取り組み
福岡県セーリング連盟	住み続けられるまちづくり
NPO 法人日本ウィンドサーフィン協会	「スポ GOMI Ocean」の全国での実施
湘南サニーサイドマリナー株式会社	藻場の創生など、海の豊かさを守る活動
中部学生ヨット連盟	海の豊かさを守ろう 今後ビニールゴミの削減に努める取り組みを実施したいです。
神奈川県セーリング連盟	ハーバー内のごみを少なくする取り組みの工夫 例:飲料水にマイボトルの活用推進。 アルミ缶やペットボトルをなるべく小さくつぶしてからゴミとして出す。

外洋内海	日本全体の JSAF 加盟名団体による plastic smart をしたい、自身の団体では 3 年前からこれを実施しています
Gaiyou Naikai Yacht Club	All JSAF begin "Plastics Smart" & Focus on Gender Equality within race committees. Gaiyo Naikai began three years before

4 サステナビリティ(持続可能性)に関する特色ある取組事例集

- サステナビリティ(持続可能性)に関する特色ある取組は以下の通りであった(43 事例)。

図表 4-1 サステナビリティ(持続可能性)に関する特色ある取組の背景・内容・工夫・課題・展望等

No.	団体名	取組の背景・内容・工夫・課題・展望等
1	和歌山県セーリング連盟	協議会の参加賞としてマイボトルを配布した。また参加者以外は原価での販売と利用促進の呼びかけを行っている。
2	一般社団法人 日本スナイク協会	当協会では本年度より主催する大会会場へのマイボトルの持ち込み、海上でのプラスチックバッグの使用禁止の推進を行います。 具体的な内容としては当協会主催の全日本大会や地方大会の参加賞としてボトルもしくは防水バッグ等の配布を行い。海上でのペットボトル、プラスチックバッグの使用を原則禁止にします。 海洋のプラスチック汚染が進んでおり持続可能性(環境)に寄与できればと考えます。
3	一般社団法人 日本スナイク協会	当協会は 2019 年に法人化いたしました。全国に広がる所属会員に対し同一サービス、同一負担の平等性向上、一層の財政健全化を実現しており、更なる向上を目指しています。 運営基盤の安定化、会員の満足度向上につながり持続可能性(組織原理)の向上を図ることに成功しています。ひいては日本セーリング界の持続可能性に寄与しているものと考えます。
4	一般社団法人 日本スナイク協会	レースコミッティ用の食事について過不足ない提供についてさらなる向上に努めます。
5	(公財) 広島県セーリング連盟	#3 すべての人に健康と福祉を セイラビリティ広島 あびの会ではハンザクラスヨットを使って、「誰でもセーリングを楽しむことが出来る」ことを目的として開発されたヨットですので、まさにすべての人が健康と福祉を享受できるヨットです。
6	(公財) 広島県セーリング連盟	#5 ジェンダー平等を実現しよう #10 人や国の不平等をなくそう ハンザは「Sailing for everyone」(誰でもセーリングを楽しめる)ことを旨とし、障がいのある人、ない人、年齢、性別、国籍に関係なく、すべての人達の人格と多様性を尊重し、一緒になって活動するインクルーシブスポーツです。 ハンザの大会では、年齢、性別、障がいの有無、国籍に関係なく、同一ルールの下、一斉にスタートしヨットレースを展開します。
7	(公財) 広島県セーリング連盟	#14 海の豊かさを守ろう 私たちはハーバー内やセーリング海域でのごみの回収作業などを通して豊かな海洋環境を保全する活動で貢献しています。また、今年 10 月に広島観音マリーナ沖で開催する、ハンザヨットのアジアパシフィック大会&パラワールドハンザ大会では、選手に容器を渡しレース終了後の海面の海水を汲んで帰り、地元の理工系大学のゼミと協同するブースに容器を持ち帰ればポイント付与し、レース終了後の SDGs レースで表彰されるような啓発活動を行います。SDGs レースの趣旨は、大きな貢献をしたと言うよりも、参加者の意識改革を促し、それを発信することで周囲への啓もうにつながればと思っています。
8	(公財) 広島県セーリング連盟	#16 平和と公正をすべての人に 広島でのハンザの大会は毎年「ピースカップ」と称して、日本全国はもとより、世界からの参加者に、被爆地広島から平和の発信を行ってきました。2018 年のハンザワールド広島大会では、入賞者に折り鶴を萩焼の焼き物で作り、毎年世界から聖地ヒロシマに贈られる折り鶴を焼却処分した灰汁を釉として着色した像をトロフィーとして授与しました。
9	福井県セーリング連盟	大会や体験会イベントなどで海をきれいして欲しい事を発信しています。
10	福井県セーリング連盟	ヨットハーバーなどの施設に流れてきたゴミを拾う活動もしています。ゴミを出さない活動をしないといけないので、ヨット関係者への発信に努めています。

No.	団体名	取組の背景・内容・工夫・課題・展望等
11	関東学院大学ウインドサーフィン部(教職員)	競技の普及(宮城県被災地で子供対象に海の楽しさを伝える。宮古島での高校と連携した教室開催)展望としては、競技をしている学生が、子供たちに海の楽しさを伝えることで、「海の豊かさ」「人とのつながり」を共に知ってもらい、相互の豊かさにつながるよう波及効果を狙っている。 課題は、資金面です。(交通費等の負担が大きく援助がないと実施が困難)
12	関東学院大学ウインドサーフィン部(教職員)	東日本大震災の被災地を訪れて、海への怖さを理解し、その上で海から離れないで少しずつ「海の豊かさ」を知ってほしい思い、実施しました。
13	日本オープンスキフクラス協会	小中学校生徒を対象としたヨット試乗会の開催
14	日本ホビークラス協会	高校生を対象にセーリングを体験できる機会をつくり海の魅力を知ってもらう。特に教育機関に賛同いただくために卒業した母校を中心に声がけからはじめてみる。
15	特定非営利活動法人大阪北港ヨットクラブ	障害者でも参加できるセーリング体験会、大会を実施しています
16	茨城県セーリング連盟	自治体(生涯学習課)等と協力し、親子ヨット教室を霞ヶ浦水域で開催。かつて霞ヶ浦が泳げるほどきれいな水であり、地域によってはハマグリも採れたことなどを紹介し環境問題について考える機会をつくっている。
17	東京ヨットクラブ	10年ほど前から使い古したセールでバックなどを作成するイベントを継続(2021年2022はコロナで開催せず)している。
18	東京ヨットクラブ	他の団体でも行っている海を汚さないという事でレース等の際ごみを海に投棄しないようレース公示等で表示、啓蒙しています。
19	松島・名取ジュニアヨットクラブ	東日本大震災のご支援で頂いたヨット(OP級)をクラブメンバーで補修・塗り直しなどしながら大切に乗り継いでいます。セールも傷んでしまう前にメーカーさんに修理をお願いするようにしています。
20	jsaf 外洋沖縄	離島へ行くレースにおいて地元の子供達、保護者に対して体験セーリングを行っている。
21	NPO 法人日本ウインドサーフィン協会	回収不可能な海底ゴミになる前に、今私たちができること。競技を通じて、海とビーチの環境を守ります。海上を漂うゴミが、回収不可能な海底ゴミになる前に、ウインドサーファーができること。ビーチ部隊と海上部隊が協力してスポ GOMI を行い、海を綺麗に保ちます！スポ GOMI エリアが海上にまで広がった、国内初の新しい環境イベントです。 スポ GOMI OCEAN https://www.youtube.com/watch?v=uLc1iZ5NzTU https://kazenami.co.jp/service/oceancleanproject/
22	NPO 法人日本ウインドサーフィン協会	ウインドサーフィンは、道具の至る所に強く軽い素材である CFRP(カーボン)を使用しています。しかしその CFRP のほとんどは、粉碎して埋立に使われています。JWA と風波アソシエイツは、自分たちが普段使っている道具が廃棄処分されている事実を目の当たりにし、何か行動を起こせないかと思い、CFRP RECYCLING PROJECT を立ち上げました。CFRP RECYCLING PROJECT は、CFRP における問題点をわかりやすく解説し、今現在どのような取り組みがなされているのか、何が足りていないのか、どのような施策があれば問題は解決できるのかを、専門家の知見を得ながら考察し、発信していく取り組みです。 2021年6月から静岡大学工学部 化学バイオ工学科の岡島いづみ准教授と、折れてしまったウインドサーフィンのマストから、CFRP を取り出す実証実験を開始しています。 https://kazenami.co.jp/service/sample-service2/

No.	団体名	取組の背景・内容・工夫・課題・展望等
23	NPO 法人日本ウインドサーフィン協会	「ウォーターマン」の名を冠したオンラインマガジン「WATERMAN'S PRESS」では、ウインドサーファーだけでなく、様々な分野で海の環境改善のために活動する人々とも「ウォーターマン・スピリット」を共有し、微力ながらも彼らの活動をサポートしたい、と考えている。海水の酸性化、海中のマイクロプラスチック、沿岸海域の磯焼け……今、私たちの海は待ったなしの危機に瀕している。そんな海の窮状に目を向け、私たちは「ウォータマン」としての自覚を持って行動を起こさなければならない……そんな思いが「WATERMAN'S PRESS」の創刊を促した。 「Eddie Would Go! 」(エディなら行くぜ!)。 ハワイの人々は困難な状況に立ち向かう時、この言葉を思い出して勇気を振り絞るという。「WATERMAN'S PRESS」もこの言葉を胸に、私たちの海の未来のためにメッセージを発信し続けていきたい。 https://watermanspress.com
24	湘南サニーサイドマリーナ株式会社	2014 年から太陽光発電による電力供給を行っています。発電量は約 2 メガワット、年間約 1,550,000kg の Co2 削減効果があります。クリーンなエネルギー供給で SDGs に取り組んでいます。
25	中部学生ヨット連盟	大会において海岸清掃活動の実施
26	一般社団法人 パラセーリング東京	○定期的に海と日本プロジェクト in 若洲 2021 において、海に親しみにのまない子供たちに海の安全を知ってもらいたい。セーリング(ヨット)を楽しんでもらうイベントとして開催している。 ○女性のための体験会を若洲ヨット訓練所において開催された。ヨットに乗ったことがない方もヨットを離れて久しぶりの方も、安心して楽しんでいただくため、そして東京・若洲の海を満喫した楽しい 1 日を過ごした。 ○昨年、東京都障害者スポーツ大会オープン競技(障害者セーリング)を開催した。この大会は、都民の障害に対する理解を深め、障害のある方の社会参加を推進するとともに、障害者スポーツの裾野を拡大のため、都内在住、在勤、在学の方を対象に障害の有無を問わず何方でも参加できる競技会をオープン競技として実施しました。 ○若洲では、クリーンアップデーを定期的に各利用団体(ヨット教室スタッフ、国体強化スタッフ、各ジュニア団体、大学・高等学校ヨット部、各クラブ団体等)が揃って、ヤードや艇庫や倉庫、スロープを綺麗にしています。
27	一般社団法人 パラセーリング東京	インクルーシブの実現のため、公益社団法人東京都障害者スポーツ協会が主催する東京都障害者スポーツ大会オープン競技(障害者セーリング)の位置づけとして、昨年初めて江東区若洲にて開催された。この大会を継続的に実施し、先々には正式種目として承認をいただき、持続させたい。
28	神奈川県セーリング連盟	ハーバー内に流れ込んできたごみを収集するシービンを設置するなど、他団体と一緒に取り組んでいる
20	神奈川県セーリング連盟	小さいお子さんをお持ちのセーラーが大会に参加できるようにチャイルドルームを設置するよう他団体と取り組んでいる
30	神奈川県セーリング連盟	大きな大会を開催するときに設置するチャイルドルームでは選手のお子様だけではなく大会ボランティアのお子様もお預かりすることができ、大変喜んでいただいた。
31	外洋内海	2019sustainability plans - 作成をまた一皆様でご利用ください
32	外洋内海	最新の情報を学ぶ目的で担当者を英国に派遣して必要な学習を大学で受講してその資格を得ました、MBA LS (Master Business Administration Leadership Sustainability)
33	外洋内海	sustainability は範囲が広く奥行きも深いので、どこからスタートするのはふさわしいか判断しがたいが、まずは取り組みやすい、簡単なところテーマからスタートさせました。
34	Gaiyou Naikai Yacht Club	2019 Enoshima World Cup Sustainability Plan - Produced - Completed with Success - Use

No.	団体名	取組の背景・内容・工夫・課題・展望等
35	Gaiyou Naikai Yacht Club	Sustainability Officer - Volunteer completed British University MBA Leadership Sustainability to understand latest sustainability theory.
36	Gaiyou Naikai Yacht Club	How to proceed. How to start. The subject is very large but we can start simple.
37	関西学生ヨット連盟	ハーバーの清掃活動(大会時や台風一過時において学生が自主的に活動)
38	群馬県セーリング連盟	私たちが活動している場所にはごみ箱は無く、ごみを出さないようにしています。また、出たごみは必ずもちかえり。ごみゼロに近づける努力をしています。
39	一般社団法人 日本スナイプ協会	6 月に開催した全日本スナイプマスターズ選手権において、参加賞に水筒を配り、海上へのペットボトルの持ち出しを禁止した。
40	一般社団法人 日本スナイプ協会	6 月に開催した全日本スナイプマスターズ選手権において、海上での禁煙を推進した。
41	一般社団法人 日本スナイプ協会	6 月に開催した全日本スナイプマスターズ選手権において、海上へのレジ袋等の持ち出しを禁止した。
42	大分県セーリング連盟	当連盟が母体となり「美しき OITA」海と川・水べの利用促進協議会を R2 年度に発足。海や川など水辺で活動する団体等と連携し、海岸清掃や環境啓発、相互の活動支援等を展開している。おおいたうつくし推進隊に加入
43	一般社団法人 日本 OP 協会	全国規模での OP の練習の合間使い海上に浮遊するプラスチックゴミ等の回収 令和元年より取り組みを始めたが、コロナの影響で思うように実施できなかったが、今後は体制を整え本格実施として取り組みたい。